HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	近代日本新聞の中国への導入について：『実学報』「東報輯訳」「東報訳補」欄の場合
Author(s)	陳, 静静
Citation	研究論集, 17, 67（左）-82（左）
Issue Date	2017-11-29
DOI	10.14943/rjgsl.17.l67
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/67974
Type	bulletin (article)
File Information	17_004_chen.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgsl.17.I 67

近代日本新聞の中国への導入について
――『実学報』「東報輯訳」「東報訳補」欄の場合――

陳　　静　静

要　旨

『実学報』は『時務報』の次に日本の新聞記事を訳出・掲載した中国語新聞である。当時は翻訳者の人材育成がまだ不十分であったので，日本人漢学者の古城貞吉が『時務報』の東文翻訳を担当したのに対し，『実学報』は「東報輯訳」「東報訳補」欄を設け，中国人の訳者達に依頼して，日本の新聞記事を翻訳した。時が経つのにつれて，原本の新聞記事は散逸しつつある。近年，中日両国で新聞の複製・出版が行われ，古い新聞のデジタル化・テキスト化も盛んになってきた。従って，当時の中国に近代日本のどの新聞が翻訳され，そしてどの記事が使用されたかは，中国語訳文の出典記録や新聞の中国語訳を通してその大体が判明してきた。しかし，その中には出典の不明や出典の誤記もあるので，中国語訳と日本の新聞記事の精確なコーパスを作るためには，それらの検討が不可欠である。本稿は先行研究を踏まえて 138 本のソース記事について調査した報告である。

1．はじめに

『実学報』（旬刊）は，1897 年 8 月に上海で創刊され，1898 年 1 月まで計 14 冊が発行された。「東報輯訳」欄と「東報訳補」欄が設けられ，『大阪朝日新聞』や『東京日日新聞』など，日本で刊行された新聞や雑誌から日本語記事を選び，中国語に翻訳したものが 139 本掲載された[1]。その訳者は主に中国人の王宗海，孫福保と程起鵬の 3 人であり，「総理」である王仁俊も筆述者として日本語の中国語訳に携わったことがある。

『実学報』「東報輯訳」「東報訳補」欄は精確な出典情報が備わり，日本の新聞記事と中国語訳

[1] 一つの日本の新聞記事を元に翻訳されたものが 2 本あるため，ソースとなる日本の新聞記事は 138 本ある。

文を対照でき，言語資料として研究価値の高いものと認められている。本稿ではその基礎研究を報告しようとするものである。

また，新聞の複製・出版は中日両国で行われているが，散逸したものもある[2]。近代という遠くなりつつある時代の記録を後世に伝えるためには，散逸する前に中国語訳された新聞記事を網羅し，デジタル化・テキスト化する作業[3]も必要になる。この作業によって全文検索が可能になり，引用など再利用が容易になる。しかし，作業の前提条件としては，材料となる日中両国語の記事を見つけなければならないことである。

2．先行研究

中国では日本漢字語の借用に関する研究が活発に行われている。新聞，雑誌関係の資料を用いた研究としては，『時務報』を取り上げた沈（2010）と朱（2012）が注目される。沈（2010）は，『時務報』とその訳者古城貞吉について，特に古城の雇用経緯，翻訳活動，中国での活動，及びそれに関する著作『滬上銷夏夢』などを詳しく研究している。朱（2012，2013，2015）は，『時務報』『清議報』『訳書彙編』などによって近代中国語に借用された語を明らかにした。このほかに，邵（2011，2013，2014）は，『名六雑誌』の漢語について，中国語に借用された漢語にも触れた。李（2006）は梁啓超，沈（2010）は黄遵憲，常（2014）は魯迅の日本漢字語の借用とその役割について研究を進めている。

本論が調査対象とする『実学報』に関しては，秦（2007，2008，2010a，2010b）がある。これらは翻訳された日本の新聞記事を調査し，近代中国語における日本漢字語の借用に関する研究である。秦（2010b）の『実学報』の調査結果によると，出典記録が「東京電報」と「日本報據紐約里拉羅道報」と記載された記事は『神戸又新日報』の掲載記事であり，ソース記事の掲載新聞を 10 種類に推定した。なお，『銀行半季報』は実在しなかった新聞とし，出典が記載されなかった記事「下議院議長更迭」の出典は分からないままだった。

新聞記事のデジタル化作業を行うものとして，「聞蔵Ⅱビジュアル」「ヨミダス歴史館」「毎索」データベースのほか，国立国語研究所の「近代語のコーパス」と神戸大学附属図書館「新聞記

---

[2] 例えば，『読売新聞』データベース 1897 年 9 月 13 日号は 4 頁と 5 ページが欠けている。北海道大学図書館所蔵『東京経済雑誌』は 1879-1885，1889-1891，1893-1923 の期間に編集されており，しかも蔵書は計 85 冊分が欠けている。『実学報』の翻訳対象となる 1897-1898 の間も 20 冊分欠けている。それぞれ 866，873，876-886，891，897，899，901-903，957 号である。

[3] 作業手順として，まず，日本語原文記事と中国語訳文のデジタル化，つまり紙新聞のスキャンニング，『大阪朝日新聞』『東京朝日新聞』『大阪毎日新聞』『東京日日新聞』の記事の場合は現在公開している『朝日新聞』『毎日新聞』データベースから記事の画像を取る。そして，日本語と中国語で各記事内容を入力し，テキスト化する。

事文庫」がある。「近代語のコーパス」は『太陽』『明六雑誌』『国民之友』『女学雑誌』などの雑誌が中心で，しかも刊行の全期間からサンプル抽出した各冊を対象にした全文コーパスである。「新聞記事文庫」は明治末から昭和45年までの新聞を主に対象とするもので，一番古いものは明治44年である。『実学報』に翻訳された明治30年の新聞は取り扱われていない。

従って，筆者は『実学報』に翻訳された日本の新聞記事とその訳文のコーパスを構築する目的で，先行研究を踏まえ，『実学報』に翻訳された日本の新聞記事を調査することにした。

3．調査資料

筆者は以下の資料とデータベースを利用して，『実学報』「東報輯訳」欄と「東報訳補」欄に翻訳された日本の新聞記事を調査する。

『朝日新聞』データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」:『大阪朝日新聞』『東京朝日新聞』

『毎日新聞』データベース「毎索」:『大阪毎日新聞』『東京日日新聞』

『神戸又新日報』1897年　神戸大学所蔵

『東京経済雑誌』第893-896号　1897年　北海道大学所蔵

『時事新報』（復刻版）第16巻-（9）　1992年発行　龍渓書舎

『中外商業新報』（復刻版）第63巻　2005年発行　柏書房

『日本』（復刻版）第27巻　1989年発行　ゆまに書房

4．調査結果

4.1　実在しなかったとされた『日本銀行半季報』の発見

「銀行會計」 譯日本銀行半季報西8月24日　第4冊　238頁[4]

4.1.1 「日本銀行半季報告」

調査した結果，実在しなかったとされた『日本銀行半季報』は以下のようにデジタル写真によって公開されたり，大学図書館に所蔵されたり，他の編纂書に収録されたりしていた。

なお，「日本銀行半季報告」とは，日本銀行が開業してから半季毎に決算報告を編集し，印刷に付して株主等に配布するものであり，「勘定の半季中における変動」「貸借対照表」「銀行券に関する貸借対照表」「国庫金勘定に関する貸借対照表」「銀行紙幣消却部勘定に関する貸借対照表」「損益勘定表」などから構成している。明治15年下半季から昭和16年下半季まで，計119

[4] 『実学報』掲載の訳文について，タイトル，出典記録，冊数，頁数を挙げている。なお，頁数は1991年中華書局出版の影印本『実学報』による。以下同様。

回発行され，明治以降における日本の金融・経済史の研究に重要な意味を持っている[5]。

①　近代デジタルコレクション公開

「日本銀行半季報」をキーワードで検索すると，大正 7 年分「日本銀行半季報告」（上半季と下半季）が近代デジタルコレクションで公開されていることが分かった。（図 1－2）

図 1　日本銀行第七十二回半季報告表紙

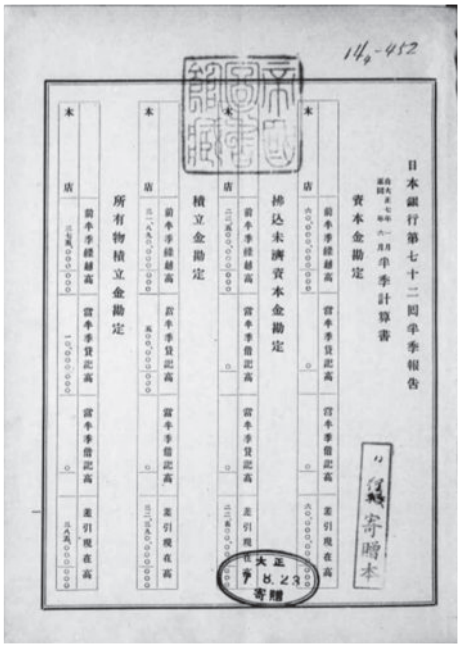


図 2　日本銀行第七十二回半季報告 1 頁

②　原本の大学図書館の所蔵状況

慶應義塾図書館編『慶應義塾大学雑誌目録：和文編』（1967）113 頁によれば，慶應義塾大学には大正 3 年から大正 14 年までの「日本銀行半季報告」が所蔵されていることが分かる。さらに，慶應義塾図書館ウェブサイトで検索すると，大正 3 年から大正 14 年までの全期間ではないが，第 65-74，81，82，87 回と 13 冊の「日本銀行半季報告」が所蔵されていることが分かった。

また，CiNii で検索すると，1894-1940 年の報告書が「半季報告」[6] という書名で小樽商科大学（19 冊），東北大学（ 9 冊），長崎大学（ 4 冊），一橋大学（11 冊），龍谷大学（ 8 冊）に所蔵さ

5　土屋喬雄（1956）「『日本銀行半季報告』解題」を参照。

6　タイトルについては，第 1 回-第 2 回が「半季実際報告書」，第 3 回-第 7 回が「日本銀行半季実際報告書」，第 13 回-第 22 回が「日本銀行半季決算報告」，第 8 回-第 12 回，第 23 回-第 119 回が「日本銀行半季報告」となっている。

れていることが分かった。1894-1941 年の報告書が「日本銀行半季報告」という書名で小樽商科大学（8 冊），一橋大学（附属図書館 26 冊，経済研究所附属社会科学統計情報研究センター 79 冊），大阪経済大学（6 冊），西南学院大学（12 冊），京都大学（32 冊）に所蔵されていることが分かった。原本の所蔵状況を表 1 にまとめる。

表 1　原本「日本銀行半季報告」の所蔵

所蔵大学	「半季報告」所蔵号	冊数	「日本銀行半季報告」所蔵号	冊数
慶應義塾大学			65-74，81，82，87	13
小樽商科大学	24，26，31-35，41-44，45，48，50，52，55，75，85，86	19	65，68-74	8
東　北　大　学	108-116	9		
長　崎　大　学	47，51，52，53	4		
一　橋　大　学	51-61	11	23，26-29，31-39，41-47，49-50，52-54/39-117	26/79
龍　谷　大　学	52，53，55-60	8		
大阪経済大学			109-112，114-115	6
西南学院大学			108-119	12
京　都　大　学			86-117	32

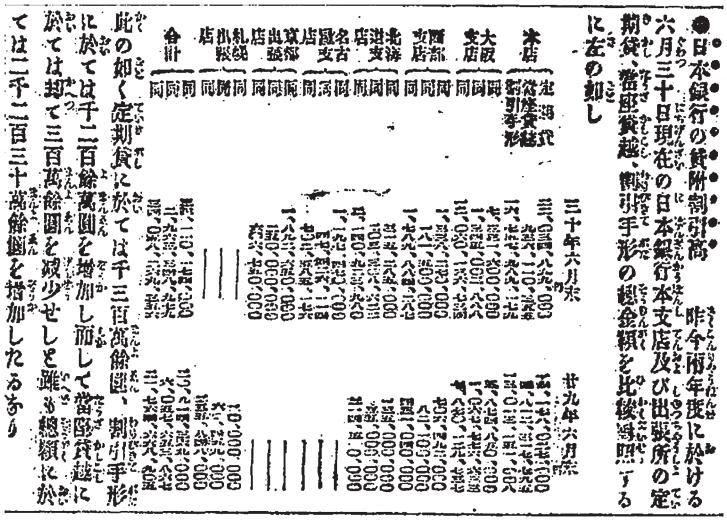
③　『日本金融史資料』への収録

原本のほかに，1956 年『日本金融史資料　明治・大正編』（第 8，9 巻）と 1963 年『日本金融史資料　昭和編』（第 5 巻）収録「日本銀行半季報告」の復刻版がある。『日本金融史資料　明治・大正編』（第 8，9 巻）には，第 1 回（明治 15 年 10 月 10 日より年末まで）から第 89 回（大正 15 年／明治元年下半季）までを収録し，『日本金融史資料　昭和編』（第 5 巻）は第 90 回（昭和 2 年上半季）から第 119 回（昭和 16 年下半季）までを収録している。

半年ごとに一回報告書を出すため，1897 年 9 月の新聞記事に出た報告書はその年の上半季報告のことであろう。第 8 巻 581-607 頁には「日本銀行第三十回計算書（明治 30 年 1 月 1 日至同年 6 月 30 日）」が収録され，即ち訳文で言及している「日本銀行半季報」である。

4.1.2　訳文の依拠記事

記事にした報告書は見つかったが，27 頁もある報告書をそのまま中国語に翻訳，新聞に掲載するのは無理であろう。おそらく関係する日本の新聞記事を基に翻訳するか，その報告書を読んで短くまとめ，翻訳したのだろう。『実学報』の出典記録の時期「1897 年 8 月 24 日」を手掛かりにして調べた結果，その日に出版された『大阪毎日新聞』の 3 頁に「日本銀行の貸附割引高」という記事が見つかった。さらに，照合した結果，中国語訳の冒頭以外，内容が一致していていたため，『大阪毎日新聞』のこの記事が依拠記事であると考えられる。（図 3）



●日本銀行の貸附割引高　昨今両年度に於ける六月三十日現在の日本銀行本支店及び出張所の定期貸、當座貸越、割引手形の總金額を比較對照するに左の如し

		三十年六月末	廿九年六月末
本店	定期式貸越	三、〇三四、八九〇、〇〇〇	一、七二〇、一〇〇、〇〇〇
	當座貸越	九、二一〇、九五五、一二五	四、〇一二、三一七、六五八
	割引手形	七、九八七、八九〇、一二五	五、七四八、八六〇、一二五
大阪支店	同	一、四四一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇、〇〇〇
	同	三、〇六〇、一六〇、〇〇〇	一、五六〇、一五〇、〇〇〇
	同	一、三六〇、一四〇、〇〇〇	九、〇〇〇、一五〇、〇〇〇
西都支店	同	一、九八〇、八四〇、〇〇〇	八一〇、一〇〇、〇〇〇
	同	三、三六〇、八四〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
北海道支店	同	一〇四、〇〇〇、〇〇〇	一五六、〇〇〇、〇〇〇
	同	一〇四、〇〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇、〇〇〇
名古屋支店	同	一、一二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一二〇、〇〇〇、〇〇〇
	同	四、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
京都出張所	同	一、八二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八二〇、〇〇〇、〇〇〇
	同	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
札幌出張所	同	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	同	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	同	三、九四四、九九〇、〇〇〇	三、〇四〇、〇〇〇、〇〇〇
	同	三、九四四、九九〇、〇〇〇	三、〇四〇、〇〇〇、〇〇〇

此の如く定期貸に於ては千三百萬餘圓、割引手形に於ては千二百餘萬圓を增加し而して當座貸越に於ては却て三百萬餘圓を減少せしと雖も總額に於ては二千二百三十萬餘圓を增加したるなり

図 3　『大阪毎日新聞』1897 年 8 月 24 日 3 頁掲載「日本銀行の貸附割引高」

図 3 の一部を翻刻すれば次のとおりである（振り仮名を省く）。

「日本銀行の貸附割引高」昨今両年度に於ける六月三十日現在の日本銀行本支店及び出張所の定期貸，当座貸越，割引手形の総金額を比較対照するに左の如し

（中略）

此の如く定期貸に於ては千三百万余円，割引手形に於ては千二百余万円を増加し而して当座貸越に於ては却て三百万余円を減少せしと雖も総額に於ては二千二百三十万余円を増加したるなり

次に，中国語訳の冒頭部分を見よう。

前二十一日．日本銀行第三十回股東總會情形．並銀行所得利益．若何分配之處．已張貼於電報欄內．日本凡新到電報．皆張貼通衢．外設柵欄以護之．

（8 月）21 日に開かれた日本銀行第 30 回株主総会の状況，並びに銀行の利益，利益分配案は「電報」欄に掲載している。日本は新着電報をまず貼って周知させ，別に記事を付けてそれを補足する。

中国語訳のみにあり，説明的な記述であるため，訳者が『大阪毎日新聞』掲載記事を翻訳した上，関係資料か新聞記事を基にして自分なりの言葉で付け加えた冒頭であると考えられる。内容から見れば，翻訳した際，訳者はある新聞の「電報」欄を参考し，関係内容を a.「総会の状況」b.「銀行の損益」c.「利益分配案」の 3 点にまとめている。また，読者に分かりやすくす

るために，小文字で日本の新聞掲載ルールの紹介も加えている。

次に，参考記事について調べると，下記の関係記事があることが分かった。

①『東京朝日新聞』1897 年 8 月 20 日 2 頁掲載「日本銀行総会」
②『東京朝日新聞』1897 年 8 月 22 日 2 頁掲載「日本銀行総会」
③『東京日日新聞』1897 年 8 月 22 日 6 頁掲載「日本銀行の定式総会」
④『大阪毎日新聞』1897 年 8 月 23 日 3 頁掲載「日本銀行の株式総会」
⑤『大阪毎日新聞』1897 年 8 月 23 日 1 頁「電報」欄掲載「日本銀行の総会」

内容を照合した結果，『東京朝日新聞』1897 年 8 月 20 日掲載記事①は開会の予告で，1897 年 8 月 22 日掲載記事②は冒頭内容の ac の内容があるが，b については触れていない。『東京日日新聞』掲載記事③は abc の内容をすべて含み，『大阪毎日新聞』掲載記事④は a，「電報」欄に掲載された⑤は bc を含み，両方とも冒頭の参考記事になり得る。図 3 に示した『大阪毎日新聞』1897 年 8 月 24 日掲載の「日本銀行の貸附割引高」が中国語訳文の依拠記事であるため，『大阪毎日新聞』掲載記事④⑤が冒頭内容の参考記事である可能性が高い。従って，『実学報』第 4 冊掲載の「銀行會計」訳文の出典は単一の記事ではなく，『大阪毎日新聞』1897 年 8 月 22，23，24 日の記事と電報内容を参照してまとめたものであろう。

4.2　出典情報未記述の日本新聞記事の発見

『実学報』に掲載された日本の新聞記事の中国語訳 139 本のうち，出典記述がないものは 1 本のみ存する。それは第 4 冊掲載「下議院議長更迭」である。訳文の中に「日日新報」が記載されているので，それを手掛かりにして『東京日日新聞』を調べた結果，1897 年 8 月 31 日の 2 頁に掲載の「衆議院議長更迭説」という記事が見つかった。対照した結果，内容が一致しているため，『東京日日新聞』のこの記事は「下議院議長更迭」の依拠記事と言える。（図 4－5）

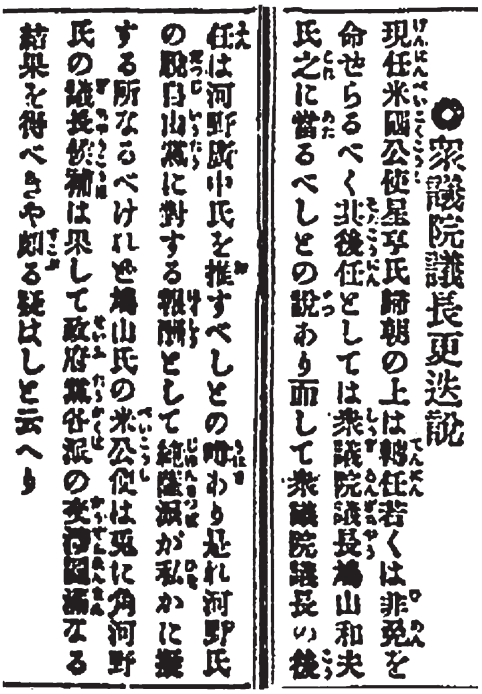

○衆議院議長更迭說
現任米國公使星亨氏歸朝の上は轉任若くは非免を命ぜらるべく其後任としては衆議院議長鳩山和夫氏之に當るべしとの說あり而して衆議院議長の後任は河野廣中氏を推すべしとの噂あり是れ河野氏の脫自由黨に對する報酬として純薩派が私かに擬する所なるべけれど鳩山氏の米公使は兎に角河野氏の議長候補は果して政府黨各派の交渉圓滿なる結果を得べきや頗る疑はしと云へり

図 4　『東京日日新聞』明治 30 年 8 月 31 日 2 頁掲載「衆議院議長更迭説」

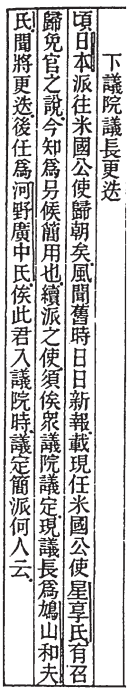

下議院議長更迭
頃日本派往米國公使歸朝矣風聞舊時日日新報載現任米國公使星亨氏有召歸免官之說今知爲另候簡用也續派之使須俟衆議院議定現議長爲鳩山和夫氏聞將更迭後任爲河野廣中氏俟此君入議院時議定簡派何人云

図 5　『実学報』第 4 冊　242 頁掲載「下議院議長更迭」

図 4 を翻刻すれば次のとおりである（振り仮名を省く）。

「衆議院議長更迭説」現任米国公使星亨氏帰朝の上は転任若くは非免を命ぜらるべく其後任としては衆議院議長鳩山和夫氏之に当るべしとの説あり而して衆議院議長の後任は河野広中氏を推すべしとの噂あり是れ河野氏の脱自由党に対する報酬として純薩派が私かに擬する所なるべけれど鳩山氏の米公使は兎に角河野氏の議長候補は果して政府党各派の交渉円満なる結果を得べきや頗る疑はしと云へり

図 5 を翻刻すれば次のとおりである。（繁体字。句読点は原文のまま。）

〈下議院議長更迭〉頃日本派往米國公使歸朝矣．風聞舊時日日新報．載現任米國公使星亨氏．有召歸免官之說．今知為另候簡用也．續派之使．須俟眾議院議定．現議長為鳩山和夫氏．聞將更迭．後任為河野廣中氏．俟此君入議院時．議定簡派何人云．

4.3　出典記録が不正確な日本の新聞記事の修正

『実学報』中国語訳の出典記録に，「大阪朝日新聞」「時事新報」を「大阪朝日新報」「時事新聞」と付けたように，「新報」と「新聞」とが類似した表現であるため，何箇所か混用されている。出典記録に「東京電報」と「日本報據紐約里拉羅道報」と記載された記事は『神戸又新日

報』が出典であり，『経済雑誌』が『東京経済雑誌』であることは秦（2010b）で指摘されている。これらのことを踏まえて，今回，出典記録の確認を行ったところ，以下の間違いを発見した。表２は中国語タイトル，『実学報』出典記録（間違いの箇所に下線），正確な出典情報（訂正部分のみ），日本新聞記事タイトルを順に示した。

表２　『実学報』出典記録の間違いと訂正

中国語訳タイトル	『実学報』の出典記録	正確な出典情報	日本新聞記事タイトル
小學生徒	大阪時事新報日本９月８日	時事新報	小学生徒
議設職工同病院	大阪時事新報日本９月７日	時事新報	職工の為めに共同病院を設けよ
西班牙首相遭難顛末	大阪毎日新聞西９月２日	大阪朝日新聞	遭難顛末（西班牙首相）
日紗近價	大阪朝日新聞西９月３日	大阪毎日新聞	上海綿糸市況週報（自八月廿一日至廿七日）
本年世界之產金見積數	東京日日新聞西９月11日	日本	世界の産金見積高
幼年學校	大阪朝日新聞西９月２日	９月１日	幼年学校
臺南知事	時事新報西９月12日	９月９日	臺南の物品陳列場
陸奥大臣事跡	大阪朝日新聞西８月26日	東京朝日新聞 ８月25，26日	陸奥伯逝く， 陸奥伯在官履歴（承前）
清國湖北之棉市好況	東京日日新聞西９月19日	東京朝日新聞 ９月16日	支那の茶と絲

特に注意すべきことは，「陸奥大臣事跡」と「幼年学校」である。前者は『実学報』の出典記録によると，『大阪朝日新聞』1897年８月26日３頁には「陸奥伯傳（承前）」となっているが，内容を対照すると大きく異なる。特に陸奥伯の在官履歴について『東京朝日新聞』８月26日の箇条書き形式と内容が合うため，正しい出典を『東京朝日新聞』1897年８月25日の「陸奥伯逝く」と26日の「陸奥伯在官履歴（承前）」にするほうが妥当であろう。但し，訳文冒頭部分の依拠記事はいまだ見つかっていない。後者の出典記録によって，『大阪朝日新聞』９月２日に「幼年学校」という記事があったが，訳文と内容を照合した結果，同紙９月１日掲載「幼年学校」が翻訳の依拠記事であることが分かった。

4.4　日本の各新聞に類似度の高い記事の掲載

新聞は世界やある地域で発生した大きな出来事に注目し，すばやく報道するものである。各新聞の間に同じ出来事を扱う記事があるのも当然のことだろう。しかし，今回の調査で，ただ同じ出来事を扱っているというわけではなく，出来事に関する記事の内容もほぼ同じであるということが分かった。例を挙げながら具体的に見よう。

例1　「廣東金礦發見」 譯中外商業新報西9月14日　第6冊　363頁
　　「廣東金礦之發見」 譯中外商業新報西9月14日　第14冊　873頁

『実学報』の「廣東金礦發見」「廣東金礦之發見」は同じ日本の新聞記事を基に翻訳したものである[7]。「中外商業新報西9月14日」と出典を記しているが，『中外商業新報』1897年9月14日2頁掲載「廣東金の礦発見」のほか，『東京朝日新聞』1897年9月15日2頁に「廣東の金鑛礦発見」が掲載されている。ほぼ同じ内容で，文の配列順序を変えたのみである。さらに，『時事新報』1897年9月14日2頁に『中外商業新報』と漢字や，振り仮名が数箇所程度異なる記事「廣東金鑛の発見」も見つかった。内容だけを検証すると，両訳文は『東京朝日新聞』か『時事新報』の記事を本に訳したと考えられる。類似度の高い記事があるにも関わらず，この2本の訳文は，日本語原文と一致していて，訳文の出典記録にも間違いがないので，ソース記事の掲載紙は『中外商業新報』として問題ないだろう。

次に，3本の類似記事の関係を見よう。『時事新報』の記事は『中外商業新報』と同じ日付で，タイトル，文の配列，内容もほぼ同じであるため，両新聞に掲載された記事は同じ作者による可能性が高い。また，『東京朝日新聞』が1日遅れて出版され，前日の『中外商業新報』か『時事新報』を参照して書いた可能性が高い。（各記事の異なる箇所に下線を付す。）

「廣東金礦の発見」近頃清國廣東省城より派遣せられたる礦務委員莊鶴清及聶，楊両礦山技師の一行は徳慶州開建縣管下の涌流地方に於て精良なる金鑛脈を發見したる由なるが試驗の結果は鑛一擔に附き最上なるは所得金價洋銀五十弗に當り最下なるは同洋銀七八弗に當る由にて同省官吏は差當り官民合資を以て株金三十萬弗の會社を組織するの計畫を為し該委員及技師は再び同地方に出張したる由，尚廣西の蒼梧縣に連亙して涌北卡，水黎，老金，雞山等の地方一帯均しく金礦に富めりと云ふ

『中外商業新報』1897年9月14日2頁掲載

「廣東の金鑛発見」清國廣東省城徳慶州開建縣管下の涌流地方に於て精良なる金鑛脈を發見せり廣西の蒼梧縣に連亘して涌北卡，水黎，老金，雞山等の地方一帯均しく金鑛に富めり試驗の結果は鑛一擔に付最上なるは所得金價洋銀五十弗に當り最下なるは同洋銀七八弗に當る同省官吏は差當り官民合資を以て株金三十萬弗の會社を組織するの計畫を為し該委員技師出張せり

『東京朝日新聞』1897年9月15日2頁掲載

[7] 『実学報』における同一日本新聞記事の翻訳は別稿で詳しく分析する。

「廣東金鑛の発見」近頃廣東省城より派遣せられたる礦務委員荘鶴清及聶，楊両礦山技師の一行は徳慶州開建縣管下の涌流地方に於て精良なる金礦脈を發見したり試驗の結果は鑛一擔に附き最上なるは所得金價洋銀五十弗に當り最下なるは同洋銀七八弗に當る由にて同省官吏は差當り官民合資を以て株金三十萬弗の會社を組織するの計畫を為し該委員及び技師は再び同地方に出張したり尚ほ同地は廣西の蒼梧縣に連亘して涌北卡，水黎，老金，雞山等の地方一帯均しく金鑛に富めりと云ふ

『時事新報』1897 年 9 月 14 日 4 頁掲載

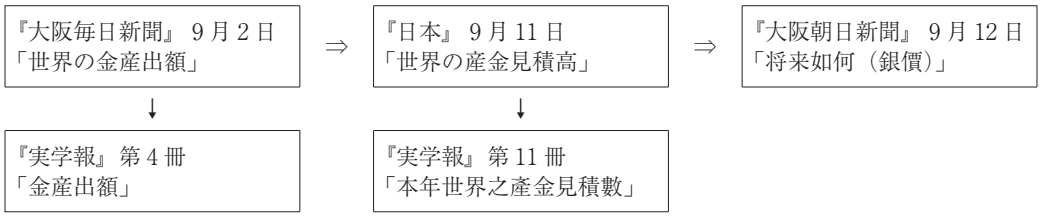
例 2 「本年世界之產金見積數」 譯東京日日新聞西 9 月 11 日　第 11 冊　671 頁

「本年世界之產金見積數」は「東京日日新聞西 9 月 11 日」と出典を記しているが，『東京日日新聞』では見当たらず，『日本』 9 月 11 日 4 頁と『大阪朝日新聞』 9 月 12 日 6 頁に類似した内容の記事が見つかった。中国語訳と対照して見ると，『日本』はタイトル，記事の長さ，内容，言葉遣いの面では，いずれも訳文に近く，『大阪朝日新聞』はタイトルも記事の長さも大きく違っており，内容的には記事の後半部分が訳文と合うが，言葉遣いの類似度は『日本』より低い。従って，9 月 11 日の『日本』に掲載された「世界の產金見積高」が『実学報』のソース記事である可能性が高い。つまり，『日本』は『実学報』の訳文のソース記事，或いはソース記事に類似した記事の掲載紙として考えられる。

ここに 1 つの問題が残った。『実学報』の 139 本の訳文の出典記述には，1 回も『日本』という雑誌が出ていなかった。もし本当に『日本』が訳者の翻訳の手本なら，1 回という低頻度もほかの新聞と違って特別だと言える。同時代の『時務報』も『日本』から記事を選び，翻訳したが，1897 年 3 月と 4 月に集中しているため，果たして『日本』はどのような経緯で『実学報』の訳者の手に入ったのか，そのルートも問題になる。

もし別のものが翻訳の手本なら，それは何だろうか。時間を遡って調べると，『大阪毎日新聞』9 月 2 日 3 頁掲載の「世界の金產出額」が見つかった。『日本』掲載の「世界の產金見積高」と対照した結果，振り仮名と用語の違いが何箇所かあるのみである。時間的には『大阪毎日新聞』が先だったため，『日本』及び『大阪朝日新聞』の記事に参照された可能性が高い。訳文と対照して見ると，対応度の高い『日本』の掲載記事をソース記事として考えられる。

ちなみに，『大阪毎日新聞』掲載の「世界の金產出額」は一歩早く中国語に訳され，その翻訳記事は『実学報』第 4 冊に掲載された「金產出額」である。従って，中国語訳の「金產出額」と「本年世界之產金見積數」も非常に類似した記事になった。以上の各新聞と記事の関係は次のようにまとめられる。



例 3　「臺南知事」 譯時事新報西 9 月 12 日　第 14 冊　867 頁

「臺南知事」のソース記事に関して，『大阪朝日新聞』『東京日日新聞』『日本』と『時事新報』に非常に類似した記事が 5 本あることが分かった。訳文の一文「磯貝静蔵氏昨日午後六點鐘来京」のみがいずれの記事にも見つからず，この欠けた記事以外の内容から判断すると，類似記事をすべて参照したとは言えないが，恐らく複数の記事を参考にして翻訳したのだろう。以上の考察から，『実学報』の出典記録「時事新報西 9 月 12 日」は誤りである。また，「臺南知事」の記事にある「磯貝静蔵氏昨日午後六點鐘来京」に触れている内容がある日本の新聞記事が見つかるまでは，出典記録について，同じ『時事新報』という点から「時事新報西 9 月 9 日」とする。

ほかに，「美國殖民地產物」「清國於居留外國人及商店之數」も『実学報』の出典記録以外の新聞から非常に類似した記事が見つかったが，『実学報』の出典記録に間違いがなく，記事内容の対照関係も成立するため，出典記録の記事を翻訳の手本とする。

今回の調査で見つかった類似度の高い記事情報をまとめると，表 3 のとおりである。

表 3　日本新聞の類似記事の掲載情報

中国語訳タイトル	『実学報』の出典記録	類似記事の出典情報	類似記事タイトル
廣東金礦發見／ 廣東金礦之發見	中外商業新報 西 9 月 14 日	a.　東京朝日新聞 9 月 15 日 b.　時事新報 9 月 14 日	a.　廣東の金鑛発見 b.　廣東金鑛の発見
本年世界之產金見積數／ 金產出額	東京日日新聞 西 9 月 11 日*	a.　日本 9 月 11 日 b.　大阪朝日新聞 9 月 12 日 c.　大阪毎日新聞 9 月 2 日	a.　世界の産金見積高 b.　将来如何（銀價） c.　世界の金産出額
臺南知事	時事新報 西 9 月 12 日*	a.　時事新報 9 月 9 日 b.　日本 9 月 9 日 c.　大阪朝日新聞 9 月 11 日 d.　大阪朝日新聞 9 月 12 日 e.　東京日日新聞 9 月 11 日	a.　臺南の物品陳列場 b.　臺南縣物品陳列場 c.　物品陳列（臺南縣） d.　出品勧誘 e.　臺南縣の物品陳列
幼年學校	大阪朝日新聞 西 9 月 2 日*	大阪朝日新聞 9 月 1 日	幼年学校
德國帆船	大阪朝日新聞 西 9 月 16 日	a.　東京日日新聞 9 月 11 日 b.　日本 9 月 11 日	a.　世界の最大帆船 b.　同上
美國殖民地產物	東京日日新聞 日本 9 月 12 日	日本 9 月 12 日	墨國殖民地の産物

清國於居留外國人及商店之數	東京経済雑誌 西 9 月 11 日	日本 9 月 11 日	支那居留外國人及其商店の数
德國新出名礮	日本神戸又新日報 西 8 月 25 日	東京朝日新聞 8 月 23 日	獨逸の新發明砲
歐美諸國之酗醉者禁遏法	東京日日新聞 西 9 月 11 日	東京朝日新聞 9 月 11 日	酗醉者禁遏法
田結領事	東京日日新聞 西 9 月 12 日	東京朝日新聞 9 月 11 日	芝罘新領事赴任期

注：* 印の付いている記事は出典記述の不正確記事である。

4.5 『実学報』ソース記事の特徴

先行研究と今回の調査結果を合わせて，『実学報』に翻訳された日本の新聞記事の特徴は以下の通りにまとめられる。

① 『実学報』の出典記録に現れた日本の新聞は『大阪朝日新聞』『大阪朝日新報』『大阪時事新報』『大阪毎日新聞』『経済雑誌』『神戸又新日報』『時事新報』『中外商業新報』『中外商業報』『東京経済雑誌』『東京電報』『東京日日新聞』『東京日日新報』『東京日日報』『日本銀行半季報』『日本報』の 16 種である。秦（2007）の調査では，『大阪朝日新報』『中外商業報』が『大阪朝日新聞』『中外商業新報』の誤記であり，14 種に確定した。さらに，秦（2010a, 2010b）では，『経済雑誌』『東京電報』『東京日日新報』『日本報』出典と記された記事を指摘し，原文記事の掲載紙を 10 種に確定している。

今回の調査では，『大阪時事新報』『東京日日報』『日本銀行半季報』出典と誤記された記事を見つけ，さらに 3 種の新聞が減って 7 種になった。しかし，『大阪朝日新報』『東京日日新聞』と記された「陸奥大臣事跡」「清國湖北之棉市好況」の出典は『東京朝日新聞』に確定でき，また，出典記録や先行研究で言及されなかった『日本』の掲載記事を「本年世界之産金見積数」の依拠記事と決定したため，ソース記事の掲載紙は 2 種類増えて，最終的には，『実学報』訳文のソース記事の掲載紙数は 9 種類と確定した。具体的な分布状況は表 4 のとおりである。

② 日本語記事の掲載日は 1897 年 8 月から 10 月までの間で，一番古いものは 8 月 21 日発行で，一番新しいものは 10 月 2 日発行の新聞である。月別に数えると，8 月分は 17 本（12.3%），9 月分は 118 本（85.5%），10 月分は 3 本（2.2%）と 9 月に集中している。それは当時の交通が不便であったことが原因となって，新聞が入手しにくい状況があったためであろう。

③ 中国語訳文を訳者別で考察すると，『神戸又新日報』（9 本）の記事はすべて王宗海によって口頭で訳され，王仁俊の筆述で翻訳された。『大阪毎日新聞』（10 本）の記事はすべて王宗海によって口頭で訳されたが，孫福保の筆述で翻訳された。その後孫，程両氏は主に『時事新報』『大阪朝日新聞』『中外商業新報』『東京日日新聞』『東京経済雑誌』の記事の翻訳

表 4　『実学報』訳文のソース記事の掲載紙と分布

新聞名＼冊数	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
大阪朝日新聞		4	5	1	2	3	2	5	3	3	1	5		34
大阪毎日新聞			7	3										10
東京朝日新聞		1									1			2
東京経済雑誌				1	2	1	1			3	1			9
東京日日新聞			1	3	1	3	3	3	3		6	1	1	25
日本										1				1
神戸又新日報	9													9
時事新報				4	6	1	2	3	5	1	4	8	1	35
中外商業新報[8]					1	1		3	1		4	1	2	13
合計	9	5	13	12	12	9	8	14	12	8	17	15	4	138

表 5　『実学報』のソース記事の訳者別分布

新聞名＼訳者	王宗海口訳 王仁俊／孫福保筆述	孫福保訳	程起鵬訳	合計
時事新報	（孫）4	11	20	35
大阪朝日新聞	（王）4（孫）6	12	12	34
大阪毎日新聞	（孫）10			10
中外商業新報		5	9	14
東京朝日新聞	（王）1		1	2
東京日日新聞	（孫）4	10	11	25
東京経済雑誌	（孫）1	5	3	9
神戸又新日報	（王）9			9
日本			1	1
合計	39	43	57	139

を行った。後期になると，程起鵬氏の手元に稀であるが，『東京朝日新聞』『日本』の記事も入ったと考えられる。

④　訳文は大体日本の新聞発行にそって翻訳，掲載された。翻訳スピードから見ると，一番速いものと一番遅いものはそれぞれ「德國新出明礮」13 日間，「清艦沈没」66 日間である。ほかの大多数は「幼年学校」のように，日本で発行されてから中国で訳出・掲載されるまで 1 ヶ月前後の時間がかかっている。

[8] 「廣東金礦發見」（第 6 冊）と「廣東金礦之發見」（第 14 冊）は同じソース記事を持つため，第 6 冊の記事として数える。

「德國新出明礮」:『神戸又新日報』 8 月 25 日 ──『実学報』 8 月 11 日（西暦 9 月 7 日）
「幼年学校」:『大阪朝日新聞』 9 月 1 日 ──『実学報』 9 月 1 日（西暦 9 月 26 日）
「清艦沈没」:『大阪朝日新聞』 9 月 29 日 ──『実学報』11 月 11 日（西暦 12 月 4 日）

⑤ 訳者が正確な出典情報を書いたおかげで，遡って当時の日本の新聞記事を見つけることができる。複数の参考記事があっても 1 本のみを出典として記したり，当時の日本の各新聞記事に非常に類似した記事があったため，依拠記事を誤認することもあった。今回の調査で出典不記載の情報や出典誤記に対して正しい出典を添え，今後の研究に便宜を図ることができた。

5．おわりに

19 世紀末期の中日間が交通不便であった情況の中，翻訳原本の掲載時期が 1897 年 9 月に集中していたが，『実学報』は 9 種類の日本の新聞から 138 本の日本語記事を翻訳し，中国社会に紹介した。今回の調査を通して，出典記録のない記事のソース記事を見つけ，出典記録の間違いも訂正したほか，当時の日本の新聞の間にあった非常に類似した記事も発見した。翻訳の正確な依拠記事の認定，及び今後のデータベース構築・テキスト化にも資することであった。

本稿で扱わなかった『時務報』の出典記録の状況も『実学報』と類似している。『時務報』の出典記録によると，34 種の日本の新聞・雑誌が翻訳されたが，『東京経済雑誌』を「経済報」「経済雑誌」「東京経済誌」と略称していたり，『日本』を「日本報」「日本新聞」，『東邦協会会報』を「東邦学会録」と訳したりしていて，実際の状況はどうだったかを正確に理解するためには調査する必要がある。『時務報』「東文報訳」欄によって翻訳された日本の新聞記事の調査を今後の課題としたい。

（ちん　せいせい・言語文学専攻）

参考文献

慶應義塾図書館編（1967）『慶應義塾大学雑誌目録：和文編』慶應義塾図書館
朱　京偉（2012）「『時務報』（1896-98）中的日語借詞 ── 文本分析与二字詞部分」『日語学習与研究』2012（3）
朱　京偉（2013）「『清議報』中的四字日語借詞」『日語学習与研究』2013（6）
朱　京偉（2015）「『訳書彙編』（1900-1903）中的二字日語借詞」『漢日語言対比研究論叢』第 6 輯　華東理工大学出版社
邵　艶紅（2011）『明治初期日語漢字詞研究 ── 以明六雑誌為中心』天津．南海大学出版社
邵　艶紅（2013）「『明六雑誌』在中日詞彙交流中的作用与影響」『日語学習与研究』2013（3）

邵　艶紅（2014）「従『明六雑誌』看明治初期的日語三字詞」『日語学習与研究』2014（6）
常　暁宏（2014）『魯迅作品中的日語借詞』天津．南開大学出版社
沈　国威（2010）『近代中日詞彙交流研究 ── 漢字新詞的創製，受容与共享』北京．中華書局
秦　春芳（2007）「『実学報』日本語翻訳記事の新漢字語 ──『日本国語大辞典』における初出用例との比較」『広島大学教育学研究科紀要　第二部　文化教育開発関係領域』56
秦　春芳（2008）「中国近代新聞と日本新漢語の導入 ── 日本語記事「清國膠州灣」の中訳を例として」『或問』15
秦　春芳（2010a）「『実学報』に見える近代中国語の日本漢字語借用」『国文学攷』205
秦　春芳（2010b）『近代中国語における日本漢字語借用に関する研究 ── 定期刊行物の翻訳記事を中心に』広島大学博士論文
李　運博（2006）『中日近代詞彙的交流 ── 梁啓超的作用与影響』天津．南開大学出版社
劉　凡夫（2012）「以黄遵憲『日本国志』（1985）為語料的日語借詞研究」『日語学習与研究』2012（3）

使用資料・データベース

『神戸又新日報』1897 年　神戸大学所蔵
『時事新報』（復刻版）第 16 巻-（9）　1992 年発行　龍渓書舎
『実学報』（影印本）1991 年　中華書局編輯部集　北京：中華書局
『中外商業新報』（復刻版）第 63 巻　2005 年発行　柏書房
『東京経済雑誌』第 893-896 号　1897 年　北海道大学所蔵
『日本』（復刻版）第 27 巻　1989 年発行　ゆまに書房
『日本金融史資料　明治・大正編』第 8，9 巻　1956 年　日本銀行調査局編　大蔵省印刷局
『日本金融史資料　昭和編』第 5 巻　1963 年　日本銀行調査局編　大蔵省印刷局
『朝日新聞』データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」:『大阪朝日新聞』『東京朝日新聞』
『毎日新聞』データベース「毎索」:『大阪毎日新聞』『東京日日新聞』

付記　本論文は中国国家留学基金管理委員会の支援による研究成果の一部である。